

第15回映画祭 TAMA CINEMA FORUM 開催 11/19(土) 11/27(日)

大人のための恋愛講座

11月23日(祝)やまばとホール

愛についてのキンゼイ・レポート

監督:ピル・コンソン
主演:リアム・ニーソン



動物学のキンゼイ助教授は、学生の性に関する様々な質問に答えられずセックスという分野がいかに未開拓かを思い知る。そこで助手と共に性体験についてインタビューを行い、結果をまとめたレポートを出版するが……。

いつか読書する日

監督:緒方明 主演:田中裕子



牛乳配達的美奈子は、ある事件で気まづくなった高校の同級生槐多を想い続けている。槐多は病気の妻・容子を看病する一方飲めない牛乳を取っていた。2人の秘めた想いを知った容子は2人が一緒になればと願い始める。

エターナル・サンシャイン

監督:ミシェル・ゴンドリー
主演:ジム・キャリー



恋人のクレメンタインと別れた主人公に「クレメンタインは貴方の記憶を全て消しました」という手紙が届く。仲直りを考えていた彼は記憶を消されたことにショックを受け病院を訪れる。自分も彼女の記憶を消す為に一。

(B) はああ〜、恋愛って難しいですね……。

(A) ど、どうしたんじゃ、タマコ! この前まで「恋ってなんて素敵なの!」なんて目を輝かせて話してたじゃないか。

(B) いいんです、いいんです。とにかく、この「大人のための恋愛講座」を観て勉強し直します。

(A) 性について追求したキンゼイ博士が愛に気づく『愛についてのキンゼイ・レポート』、単なるラブストーリーを超え、人生の意味を問いかける『いつか読書する日』、観る者をあっといわせる緻密な構成で、恋愛の素晴らしさを教えてくれる『エターナル・サンシャイン』。どれも巷に溢れている”感涙のラブストーリーもの”とはひと味違ったラインナップじゃな。

(B) どれも心に沁みそうですよ!

(A) うむ。ま、どうしてもというのなら私と一緒に映画祭に……

(B) 女友達誘ってふたりで観に行ってください♪

韓国男性スターの魅力

11月25日(金)やまばとホール

甘い人生

監督:キム・ジウン 主演:イ・ピョンホン



高級ホテルの総マネージャーを務めるソヌ(イ・ピョンホン)は、裏社会を牛耳る上司に愛人の監視を命じられて、嘘の報告をする。このことが仇となり、彼は次第に窮地へと追い込まれていく……。

マルチュク青春通り

監督:ユ・ハ 主演:クォン・サンウ



主人公のヒョンス(クォン・サンウ)が転入して来た高校はガラの悪い生徒の集まりだった。転校早々の暴力にうんざりするヒョンスだが、下校時のバスで美しい女子高生に一目ぼれをする。

マイ・ブラザー

監督:アン・クワンテ 主演:ウォンビン



母親に女手ひとつで育てられた兄弟。2人は同じ高校に通っているが、おとなしく優等生の兄に対し、ウォンビン演じる弟はケンカを繰り返す劣等生。高校卒業後、兄は大学へ進み、弟は取り立ての仕事を始めるが……。

(B) 大スクリーンでこんなにたくさんのスターに再開できるなんて感激です!

(A) 韓流スター? わしゃサッパリわからんぞ。

(B) やだ先生、遅れてる……。ホントに素敵なんですよ!! ヨン様の人気は相変わらずですけど、「冬のソナタ」をしのぐ視聴率を記録した「美しき日々」出演のイ・ピョンホンや、同じく「天国の階段」でブレイク、いま大注目のクォン・サンウ、日本で韓流ブームをつくった韓国四天王のひとり、ウォン・ビン(ウットリ)! も〜、ファンならずとも必見のプログラムなんですから!

(A) タマコ、なぜか殺気だつとるぞ。

(B) 実力・魅力・人気ともにハリウッドスターと並ぶイ・ピョンホンもイイし、「mom チャン(素晴らしい肉体の持ち主)」と称されるクォン・サンウも捨て難い。でも私はやっぱりウォン・ビン! 今月29日に軍隊に入隊する彼は、兵役義務は2年で江原道・春川(チン)の第102補充隊に所属の予定。待ってるからねウォン・ビン!

(A) なにに、ウォン・ビンの好きな女性のタイプは「清纯で心がきれいな女性」らしいぞ。

(B) ひええ! 私じゃないですか!

(A) ……。

今年も開催します、第15回映画祭TAMA CINEMA FORUM。全28プログラム、100本を超える作品を一挙上映してしまうという空前の大イベント!

——え、そんなに上映作品が多かったら、何を観たらよいかわからない? そんなアナタのために、独断と偏見で選出したおすすめプログラムをご紹介します! ナビゲーターは (A) 御意見番タマコ先生と (B) 助手タマコでご案内します。

JAZZ BAND NIGHT!!

11月24日(木)バルテノン多摩大ホール

Ray/レイ



レイ・チャールズは6歳で全盲に、15歳で孤児となり17歳でプロの道に入った。50年代はソウル・ミュージックの先駆者となり、60年代にはカントリーのヒット曲を出す。人種差別と戦うが、自身は麻薬に溺れていた。

(A) おお、いいな、ジャズ。私も大好きでな。

(B) (え、先生、似合わない……)

(A) タマコ、いま「わたしには似合わない」と思ったじゃろう。

(B) (ドキ!) そ、そんなことないですよ。そうだ、レイ・チャールズってどんな人なんですか?

(A) 6歳のときに緑内障にかかり、7歳の頃には完全に視力を失ってしまった全盲のピアニスト・シンガーじゃ。ゴスペル音楽とカントリーやポップなど、世俗的な音楽を折衷させることによって、ソウルやロック、ハード・バップのなかに新しいスタイルを創りあげた。ジャンルを越えた音楽を提供し続けた、20世紀を代表するアーティストじゃな。

(B) 先生カンペ棒読みですよ。

(A) コホン。満面の笑みで、体をのけぞらせ、ゆらしながら歌う姿が印象的だった。

(B) 『Ray』では、ジェイミー・フォックスが熱演。絶賛されて、アカデミー主演男優賞を受賞しましたね。

(A) タマドリームジャズオーケストラの生LIVEも楽しみなプログラムじゃ。

ハリイの旅



ロシア革命で孤児となったエレニは、オデッサから追われて難民となったギリシャ人のスピロスに拾われた。スピロス達は新たな土地に村を築き、エレニはスピロスの息子アレクシスと恋に落ちるが……。

(B) テオ・アングロプロス、エミール・クストリツァ……なんか、舌を噛みそうな名前の監督がそり踏みですが、先生、いかがですか?

(A) 黒澤明、大島渚、ジム・ジャームッシュなど、世界の名だたる映画人が、その才能に最高の賛辞を贈る映画作家、テオ・アングロプロス。世界三大映画祭(カンヌ・ベルリン・ヴェネチア)をいずれも制覇、風刺とブラックユーモアに満ちた作品を創りあげるエミール・クストリツァ。ヨーロッパの巨匠、というより世界の、という冠をつけたほうが的確じゃろうな。

(B) 私、両者ともけっこう好きなんです。アングロプロスの『永遠と一日』とかよかったなあ。クストリツァの、ジョニー・デップ主演『アリゾナ・ドリーム』とかも好きです。

(A) うむ。どちらも独特の映像美が胸に突き刺さる。好き嫌いはあるかもしれないが、一度は触れてみて良いよな、タマコ。

(B) はい! 見逃せませんね。

LIVE! タマドリームジャズオーケストラ



2001年に結成されたシニアバンド。お年寄りに夢を与え、若者に声援を送り、地域が活性化しよう各種のイベントに参加しています。映画祭では、昔懐かしい名曲からの名曲を中心に、ジャズバンドでの演奏をお送りします。

ライフ・イズ・ミラクル



セルビア人のルカは鉄道を敷くためボスニアにいたが、内戦が勃発し息子が捕虜になってしまう。その数日後、息子との交換要員の為ルカはあるムスリム人を預かることになる。2人は奇妙な共同生活を送ることになるが……。

11月25日(金)バルテノン多摩大ホール ヨーロッパの巨匠たち